

第1回
第三中学校区における市立小中学校の適正配置等に関する懇談会
意見まとめ

内容

「どんな子どもになってほしいか」ペアワーク意見まとめ	1,2 ページ
第1回 懇談会でいただいた ご意見・ご要望への回答	3,4 ページ

【A班】

- 私は、世の中についてゆけないが、その流れの中で子どもたちは生きてゆく。先生も奮闘している。孫たちが生き続けられる、流れに乗ってゆける子になってほしい。
- ネットだけで実際に触らないものがわかった気になる。触っていない植物、漆などは、年寄りにはわかるが、子どもはわからない。自然が多いので、それがわかるような教育が交野ならできると思う。

【B班】

- 小中一貫の適正に関して子どもにもメリットがあると思う。中一ギャップ問題とか以外のデメリットも聞いたかった。1クラスでしんどいのもそうかな?と思いつつも、一つの良さもあり、その良さも聞きたい。
- 老朽化は大きな問題だが、今の子、将来の子、少子化も考える必要がある。一貫校もメリット・デメリット両方ある。それについてもっと話せるかと思ってきた。そういう場が必要。

【C班】

- 無理と言わず、わからないことに立ち向かって行ける力がいうところ。
- 社会が求めるような人材となると、先ほどの話では、今までと違った人間像になってゆく。大人ができることとして見守りで毎朝立っている。地域の人が駅に送って、よその子がいるのにバーンと近くを走ってゆく。自分のことだけの親が最も問題。

【D班】

- この学校、地域の出身でよかったと思ってもらえれば。先生も努力されている。しかし、一番頑張っているのは保護者だと思う。先生がお客で来られて、話を聞くと一番驚いたのは、学校の子が泳げるのにびっくりしたと。力を入れているのに驚いたと。それを聞き地域特性の良さが大事だと思った。
- はじめの話で子どもが減ってゆくと言っていたがどうかと。一部では増えている話もあり通学路についても心配。先日、事故もあった。今はそのことが現実の問題として先ではないか。学校が統合して空いた土地がどうなるか治安も心配。

【E 班】

- 柔軟に対応できる子。人の話を聞ける子。コミュニケーションのとれる子になってほしい。女子が荒れるという話であったが子どもが小さいころから人格者として地域も付き合っ
てゆかねばならないと感じた。小中一貫校ありきではなく、コミュニティ・スクールが大
切であると思う。地域との関係が大切。最終的にはコミュニティ・スクールを見据え、地
域との関わりを大切にしてほしい。
- それぞれの校区には校区福祉委員会もある。人と人の絆を育てられるような学校を目指し
てほしい。

【F 班】

- 人の気持ちがわかる優しい子にと、希望を言ったら周りから無理だ、難しいと言われた。
難しいが人の気持ちがわかる子に育ててほしい。
- 今日話を聞いて、市教委の3中校区の現状や 4-3-2 だか 6-3 だろうが子どもが減って
ゆく中でどうやって地域と子どもを守ってゆくのが課題。

第1回 懇談会でいただいた ご意見・ご要望への回答

Q. 市としては、(施設一体型)小中一貫校をやるのかわからないので、具体的に方針を聞きたい。

A. 第三中学校区において、今後どのような学校配置を目指すのかは、学校教育審議会への諮問を行いながら、現在検討を進めているところであり、教育委員会として、明確な方針はありません。その方針を立てるために、地域や学校関係者の皆さまのお考えをお伺いさせていただくための場として、この懇談会を開催させていただいています。

Q. 市と住民の意見を言える場になるのか。意見を言わせてもらいたい。

A. 本懇談会は、教育委員会が定めた学校適正配置の方向性に対して、皆さまのご意見をお伺いするという趣旨ではなく、方向性を定めるために、皆さまのお考えをお伺いする場とご理解いただきたいと思います。

したがって、将来にわたって、子どもたちに良好な教育環境を確保していくためには、どのような学校配置・学校の在り方が望ましいと考えられるか、是非とも多くのご意見をお聞かせいただきたいと思います。

Q. YouTube でほかの人にも見てもらいたい。

A. YouTube での動画配信につきましては、現在、以下の理由等から考えておりません。ご理解くださいますよう、お願い申し上げます。

- ・参加者の皆さまの個人情報が出す可能性があること
- ・参加者の皆さまの発言を委縮させてしまうおそれがあること

Q. 適正配置のための懇談会と認識しており、一貫教育ありきとは必ずしも思っていない。また、一貫教育と一貫校がイコールとは思っていない。

A. 本懇談会は、第三中学校区の望ましい学校配置について、参加者の皆さまのご意見をお伺いするための場であり、ご認識のとおりです。また、ご指摘いただいている「一貫校」は「施設一体型小中一貫校」を指しているものとして、ご回答させていただきます。ご指摘のとおり、小中一貫教育と施設一体型小中一貫校はイコールではありません。また、小中一貫教育を実施しているから、施設一体型を目指すということもありません。だからといって、施設一体型を否定するわけではなく、“施設分離型”“施設隣接型”“施

設一体型”には、それぞれ特徴がありますので、そのような施設形態別の特徴も含めて、学校規模や通学距離など様々な事情を総合的に勘案しながら、最も望ましい学校配置を検討していく必要があると考えています。

(そのような検討を経て、例えば、第一中学校区では施設一体型小中一貫校の設置を、第二中学校区では現状の学校配置を維持(施設分離型)、という方向性が定められています。)

Q. 36人で4回話ただけでは不十分。一中校区の施設一体型小中一貫校について心配している。住民投票条例が議会に提出された。明らかに対話不足だと思う。どこに問題があったのか2回目で聞かせてもらいたい。みんなが納得できる形で何十回も話を重ねてほしい。

A. この懇談会の目的は、参加者である皆さま一人ひとりの第三中学校区の学校適正配置についてのお考えをお伺いすることであり、懇談会として最もふさわしいと思う学校配置をひとつに決定していただく必要はありません。また、36人で行う4回の会議で第三中学校区の今後の方向性を決めるようなものではありませんので、参加者の皆さまそれぞれの経験や視点等から、それぞれが最もふさわしいと思う学校配置について、参加者の皆さまどうしによる意見交換を踏まえた上で、ご意見を出していただければと考えております。

第一中学校区の義務教育学校については、本市で初めての施設一体型小中一貫校ということで、大きく変化することへのご不安やご心配もあるかと思いますが、課題の解消に向けて、今後もより多くの方々にご理解いただけるよう努めてまいります。

Q. 学校が統合して空いた土地がどうなるか治安も心配。

A. 学校統合により空いた土地については、市において活用方法等が検討されます。